



# ロシアの産業政策の行方

2008年6月24日  
ロシアNIS貿易会  
坂口 泉

# 1. 産業構造の多様化

- 産業構造を多様化させようとする意向
- 具体的には、加工産業(機械産業)の育成への強い意欲
- 点で良い企業、良い産業部門は出現するかもしれないが、線もしくは面にするのは困難では 従って、産業構造を大きく変革させるのは困難では
- 理由:あまりにも低すぎる民需用機械産業の技術レベル(工作機械)、人材不足、国内コストの高騰(価格競争力の低下)

## 2. 産業構造多様化と日ロビジネス

- 高度な日本の技術を接点に日ロのビジネス面での接点は増加するのでは
- もしかしたら、ロシアの民間資本による日本のメーカーの買収もありうるかも (RENOVA スイスのスルザー、エリコン、マフムドフ シュコダの工作機械部門、デリパスカ マグナインターナショナル、インターロス プラグパワー)

### 3. 石油分野における政策の変化

- これまでは、石油分野にはロシア経済におけるドナーの役割が課せられていた
- ところが、最近、石油分野に対し政府が配慮を見せ始めた 石油分野における減税の動き
- 何故、減税なのか 上流の状況が思わしくない 昨年あたりから主要産地である西シベリアで生産が停滞する傾向が顕著に 大産油国の立場を維持するには、新しいエリアの新しい油田の開発が重要に それを促進するには減税が必要との認識

## 4.石油分野の政策の変化と日ロビジネス

- **新しいエリアの新しい油田とは、東シベリアと極東大陸棚の鉱床・鉱区 アジアに近いエリアで開発が加速する可能性大 その結果、ロシア側企業のパートナーにアジア系企業が選ばれる可能性が高まるのでは(イルクーツク、カムチャツカ、サハリン3)**
- **東シベリア、極東での石油およびガスの精製施設建設の可能性**
- **サブプライムローンの関係でロシアの石油分野における邦銀のプレゼンスが強化されているのでは(ガスプロムネフチの事例)**